

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室

[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [資本論](#) | [資本論 \(7\)](#)[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

資本論 (7)

ここまでのおさらいをして、次につないでいきたい。

マルクスは、取引をするものは、すべて「商品」としてとらえた。

商品には、「価値」と「使用価値」のふたつが備わっていなければならない。

価値の大きさは、「労力の大きさ」であり、その商品につぎ込まれた「人間の労働力」によって決まる。

客は、価値をベースに値段を考えていくが、その妥当性を「社会平均」で決め、商品の相場が形成される。

そこから「値段」を上下させるのが、使用価値である。

使用価値が高いものは、より多くの客が欲しがらるから需要が高まり、結果的に値段は相場より高くなる。

反対に、使用価値の低いものは、価値よりも安くしないと売れないということになる。

取引するものがすべて商品であるとする、人間の労働力も商品ということになる。

ということは、人間の労働力にも「価値」と「使用価値」があるということになる。

労働力の価値とは、その労働力の生産コストである。

その仕事をするのに必要な「体力」と「知力」を産みだすための生産コストである。

労働力の使用価値とは、「労働力を使ったときのメリット」である。

使用価値が高い労働者は、能力が高く、会社に対して大きな利益をもたらす。

しかし使用価値が低く利益をもたらさなければ、その労働力は商品にならず、客に買ってもらえない。

商品の取引は、原始的な物々交換から始まり、共通のモノサシとして金や銀などの貴金属から、貨幣や紙幣という、国家が保障する通貨に発展していった。

やがて、その貨幣をいかに増やすかという資本への転化が始まっていく。

そして、その運動の担い手として、貨幣所有者が資本家になっていくのである。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.